

【解説】：財産目録

1 「I 資産の部」ですが、「流動資産」が8.6億円、「固定資産」が69.5億円で、「資産合計」は78.1億円です。

「II 負債の部」は、「流動負債」が5.4億円、「固定負債」が5.9億円で、「負債合計」は11.3億円となっています。

したがって、「正味財産」は、「資産合計」から「負債合計」を引き、66.8億円となります。

2 これを、「資産の部」と「負債の部」で両建てとなっているものを除き、「正味財産」の主な内訳をみると、「基本財産」が7.3億円、「システム高度化基金積立資産」が9.8億円、「減価償却引当資産」が22.2億円で、業務を執行するために直接必要な固定資産である「其他固定資産」が24.3億円となり、残りが次期繰越金（収支差額）3.2億円となります。

3 言い換えれば、ORSEの平成22年度末の正味財産は、66.8億円ですが、そのうち24.3億円は業務を執行するために直接必要な固定資産であり、残りは、業務の執行に直接必要な固定資産を更新する場合に必要となる減価償却引当資産が22.2億円、ETCのセキュリティに重大な脅威が予見される場合に備えてのシステム高度化基金が9.8億円、公益法人が公益事業を実施していく上で基本となる基本財産が7.3億円、そして事業執行上の手元流動性を確保する繰越金が3.2億円となっています。

業務を執行するために直接必要な固定資産24.3億円は、ETCの鍵発行やセットアップのシステムを運営するために日夜稼働しているハード及びソフト等の資産であり、ETCシステムを利用する全国で3400万台に上る車の高速道路利用情報と8000万枚に上るETCカードの情報の安全確保（情報の改ざん、漏洩、盗聴、なりすまし等の防止）や、全国に展開する26500店のセットアップ店網でのETC車載器の即時セットアップ等を可能とするコンピュータシステムを構成するもので、これにより、1日平均15000件、年間で560万件ものセットアップを実現し、ETCの普及促進に大きく寄与している資産です。（平成22年度末）

また、減価償却引当資産、システム高度化基金等は、これらETCシステムの機器を更新する場合の投資や、ETCのセキュリティに重大な脅威が予見されることとなった場合の緊急投資に必要な資産であり、また、火災や大地震等でシステムが被災した場合の復旧投資の対応のためにも必要な資産です。